

昭和49年度 和歌山県名匠

【蒔絵師】

か わ い とう いち ろう
河 合 藤 一 郎

(改名 篤亮)
とくすけ

【現住所】 海南市

【生 年】 明治36年

職 歴

叔父の鳥井齊氏に蒔絵入門（大正3年～大正9年）

河合商店自営（大正10年～現在）

業績の概要

大量生産されている漆器業界にあって、伝統工芸、特に錆上蒔絵の技法を守りながら更に研究を進め、新技術を開発するなど業界の指導的な役割を果たしてきた。

12才のとき叔父の鳥井齊氏に師事、漆芸の道に入った。大正末期東北地方を視察してから錆上蒔絵の魅力に引かれ研究。

改良を重ねながら独特の手法を創作“錆篤”の異名で呼ばれるほどで蒔絵意匠の保存と開発に貢献している。錆上蒔絵の技法はもちろんのこと、他の蒔絵技法についても自分の知るかぎり公開するので、同氏を慕う絵付師が多く、その技法の影響をかなり受けている組合員が多い。

伝統的な技術、技法が再評価されている昨今、その後継者の育成にも尽力している氏の存在は貴重である。